

# Architecture Portfolio

Kohei Kamiguchi

九州大学 建築学科4年 堀研究室所属

# 上口 航平

Kohei Kamiguchi

## Theme

素材それぞれに特有な形の建築をつくること。  
材料・土地・模型に向き合い設計しています。

## Contact

Mail: kohei.arch@icloud.com

Phone: 080-2724-3836

adress: 福岡県大野城市白木原1丁目 15-15-902

## Works

光と水と風 : 集会施設 (2017)

Copper House : 住宅 (2016)

Step House : 集合住宅 (2017)

都市の谷 : 都市デザイン (2017)

## Software



# 光と水と風





### 福岡市東区

博多湾からの海風が吹く、九州大学箱崎  
キャンパス跡地。

敷地の、風に揺れる木々から着想を得て、  
取り壊されていくこの地に、光と水と風を  
取り込む、地域の集会施設を設計する。



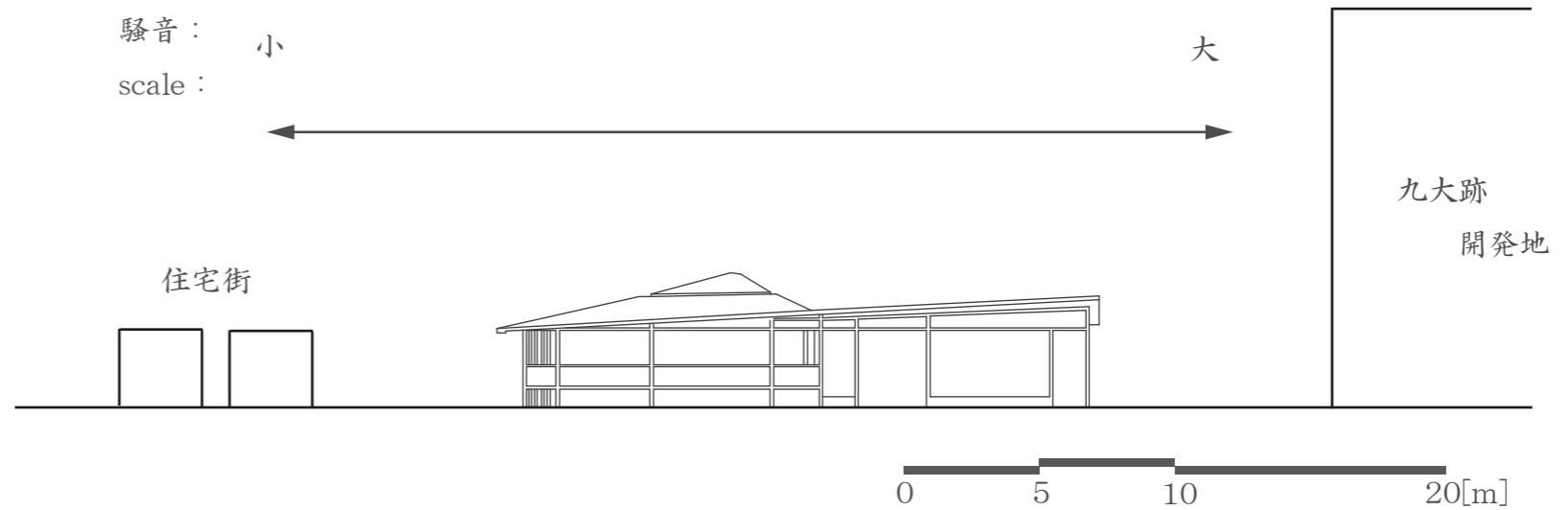
## Elevation

Facade には風を通し水を集める屋根の形と縦格子が現れる。



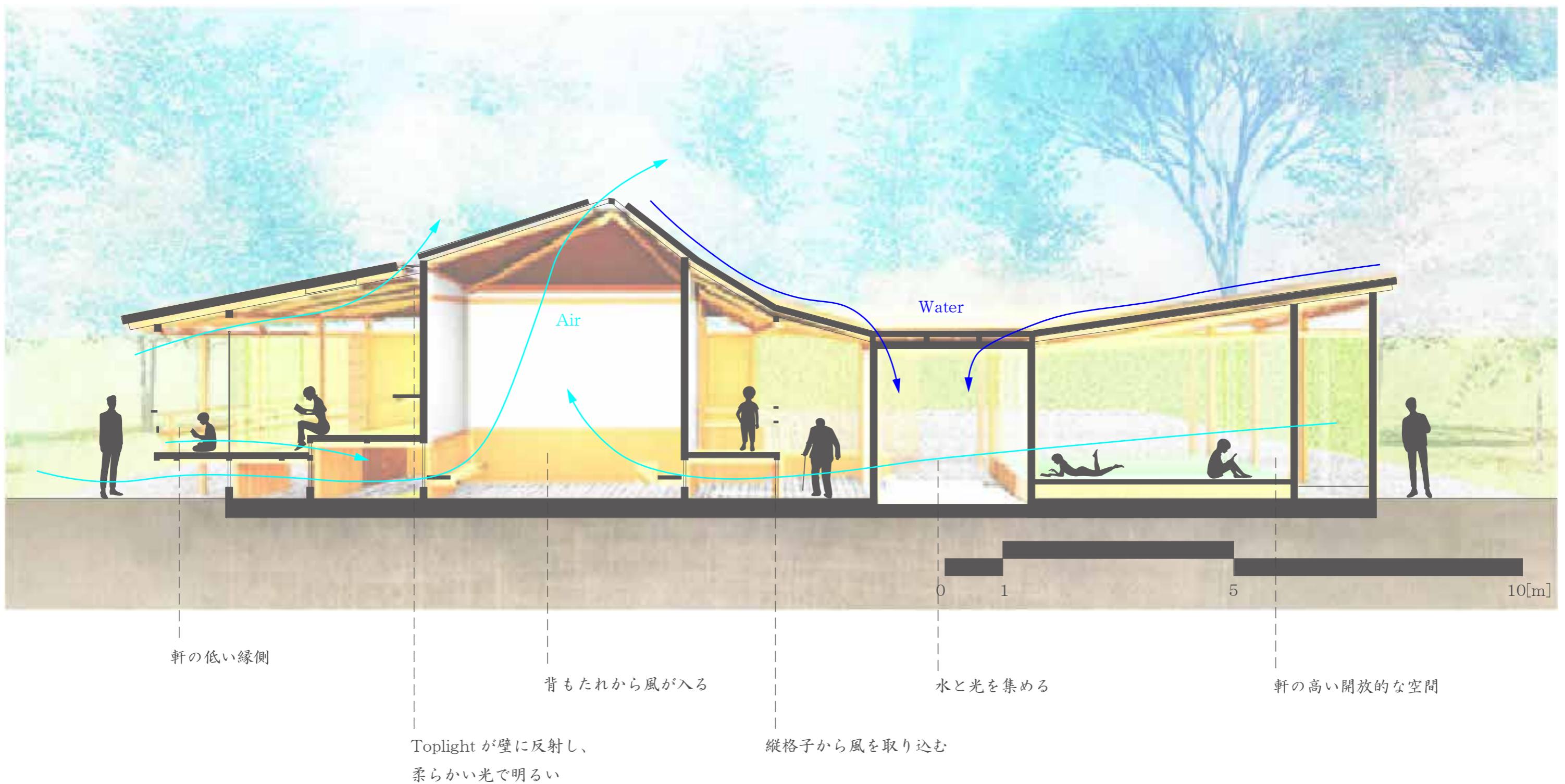
敷地の北には、九州大学跡開発地で比較的高層の建物が多く、  
南には低層の住宅街がある。

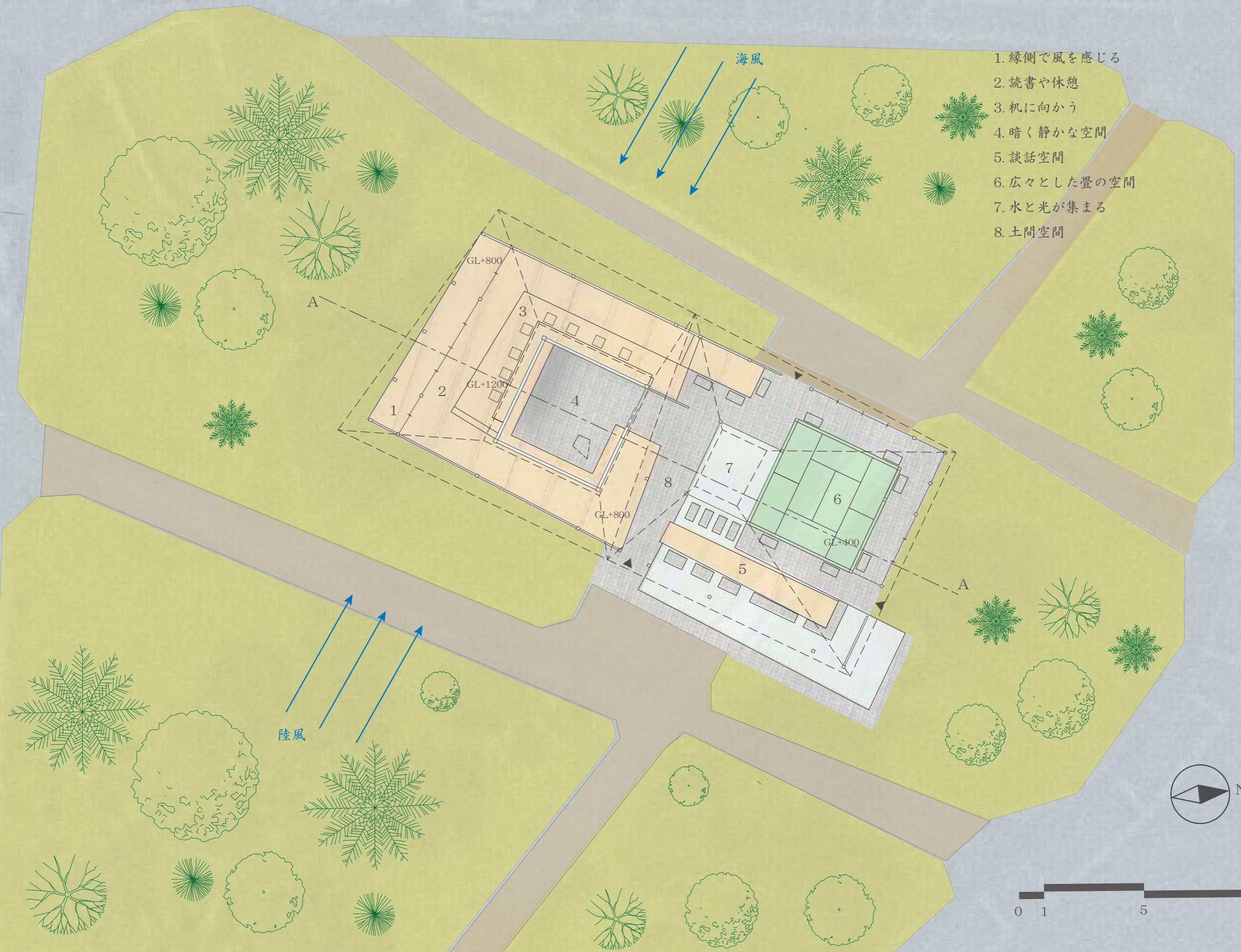
集会施設は、周辺の scale と活動の騒音に合わせて計画。  
北側は仕切りの少ない開放的な空間、南側は縦格子で仕切った  
比較的閉じた静かな空間。



# Section

風を通し、水と光を集める形。それらを感じる内部空間。

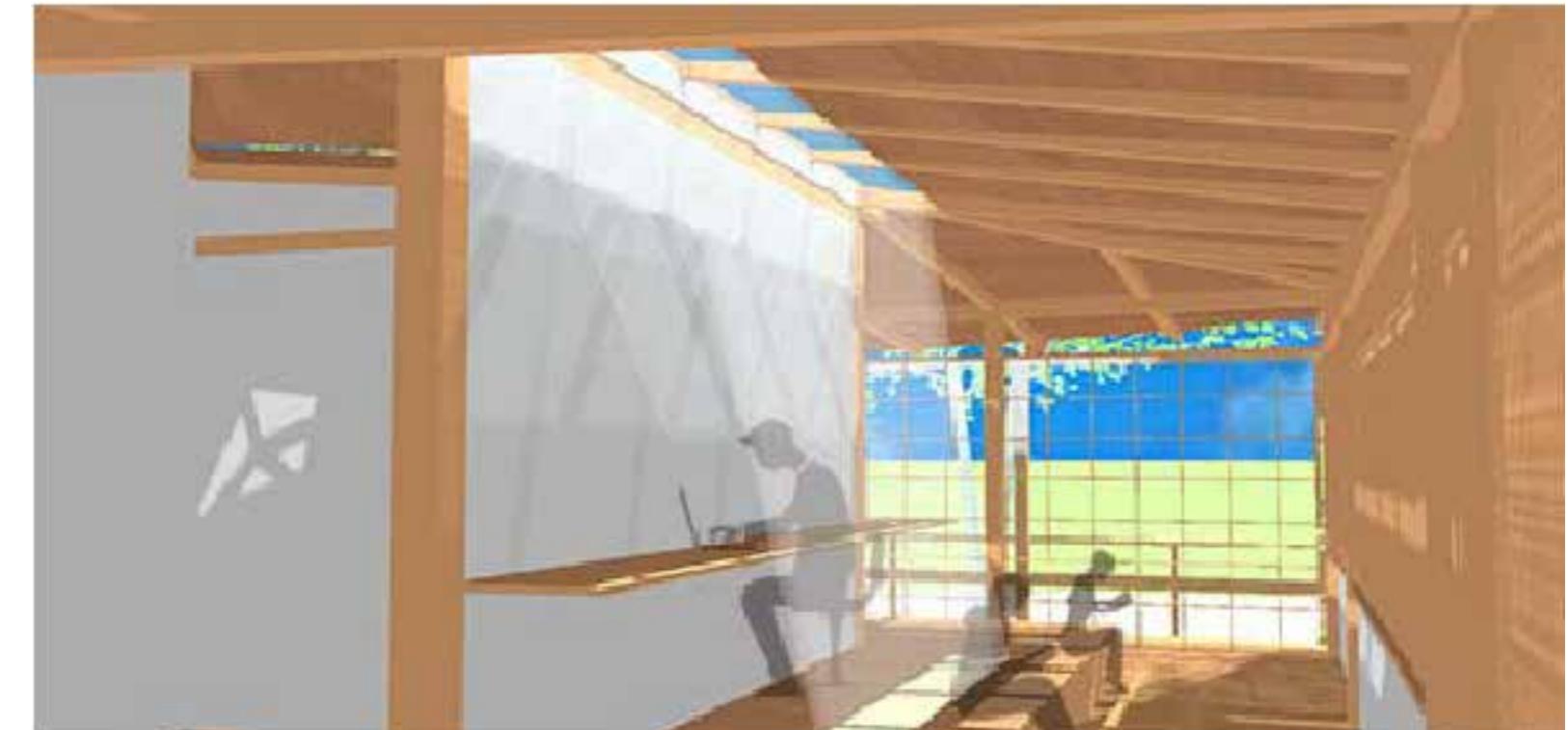
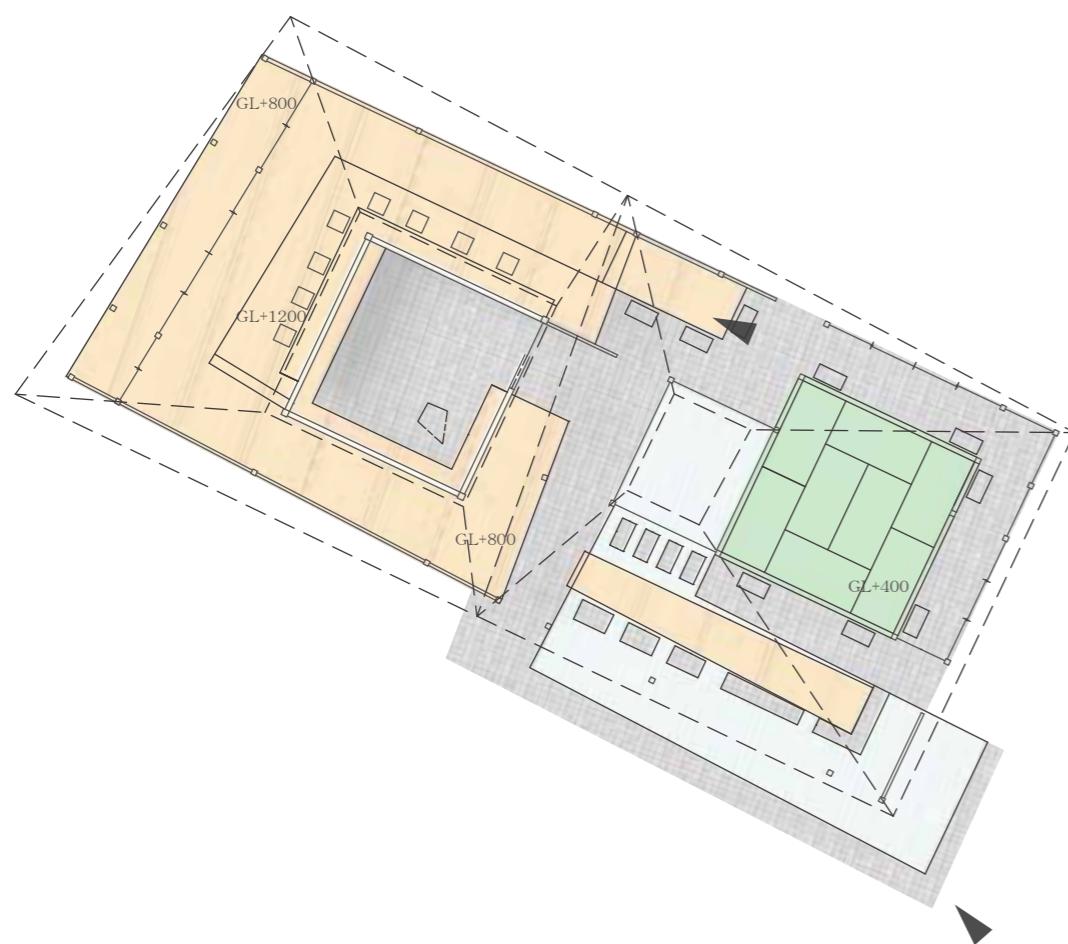




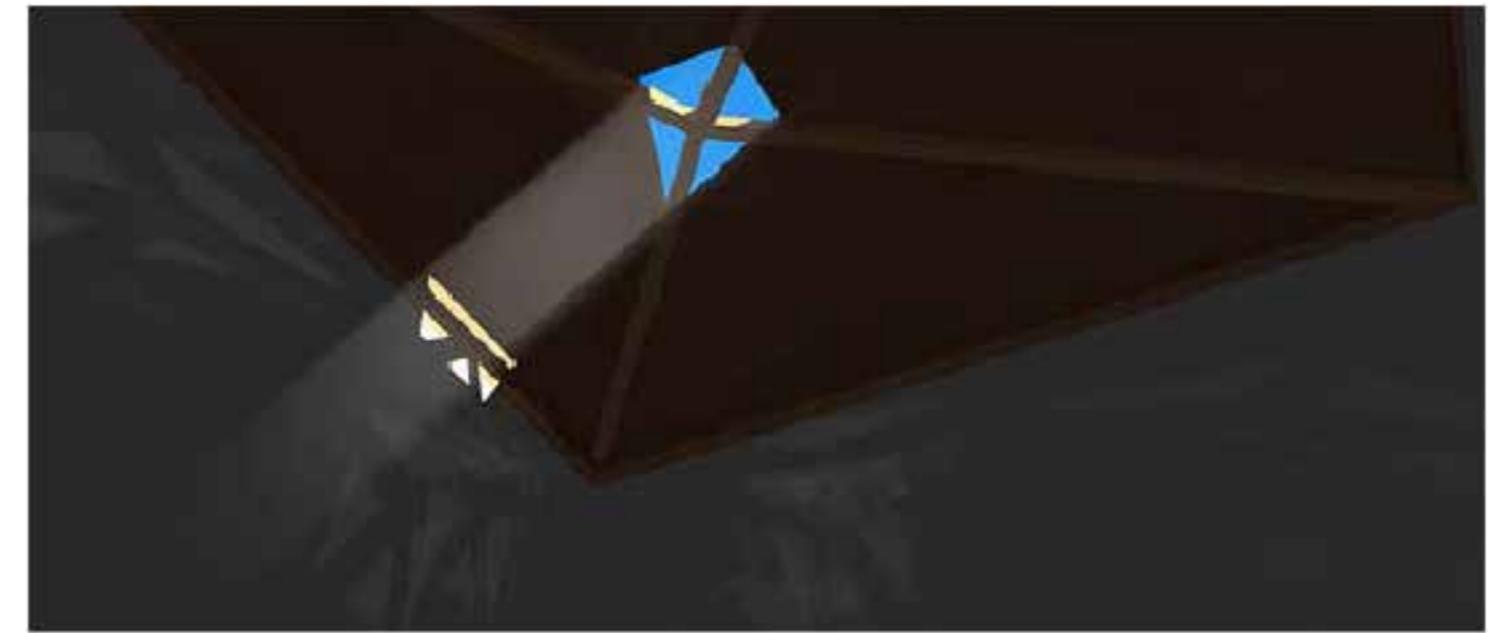
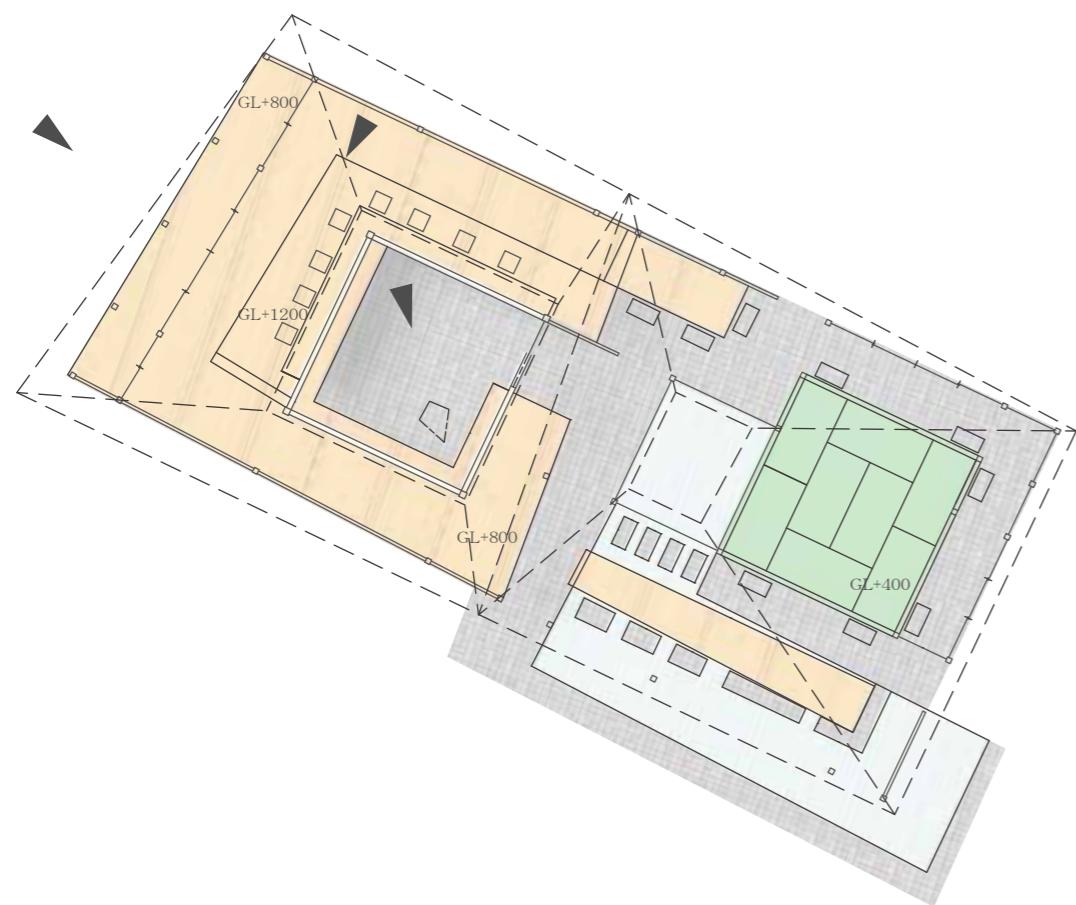
## Scene



軒の高い広々とした空間。流れる水の傍で談話する。

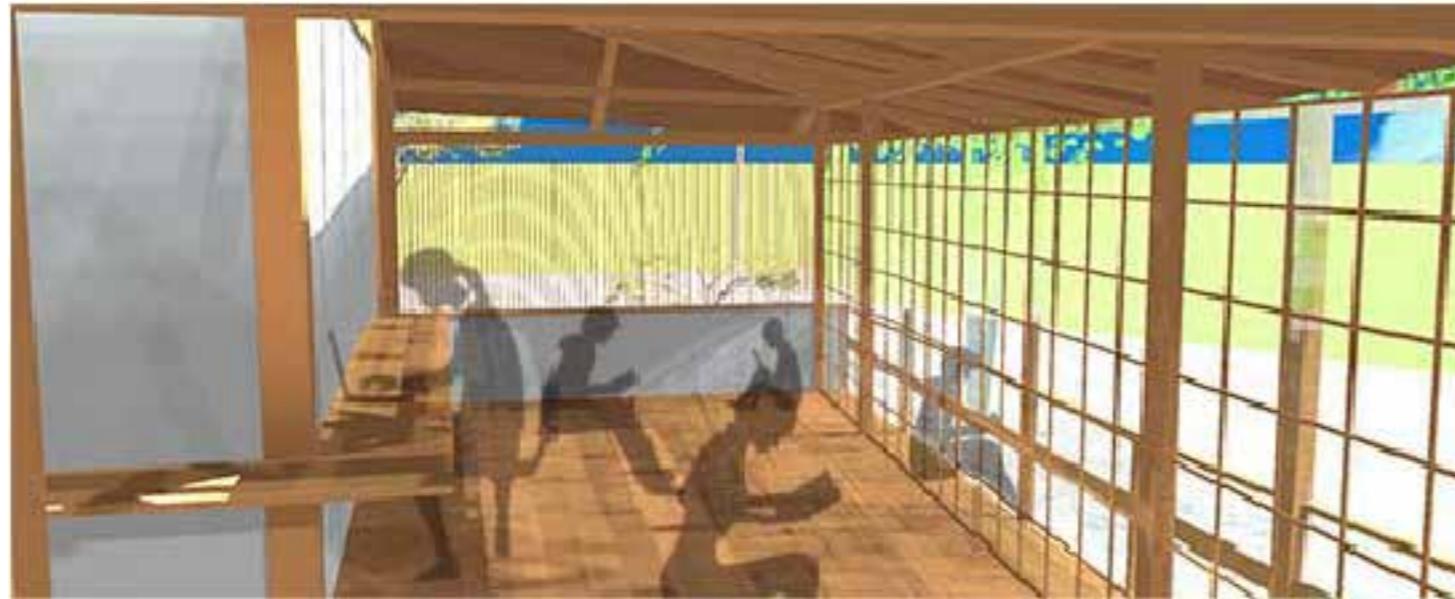


Skylight が注ぐ、明るく静かな空間。



暗闇の中で一人になる静かな空間。

上からの小さな一つの光を見る人々は、一人でありながら周りを感じる。



Slylight が壁に反射し、柔らかい光の下で机に向かう。

400mm の段差には風を感じながら読書や休憩をする人が座る。



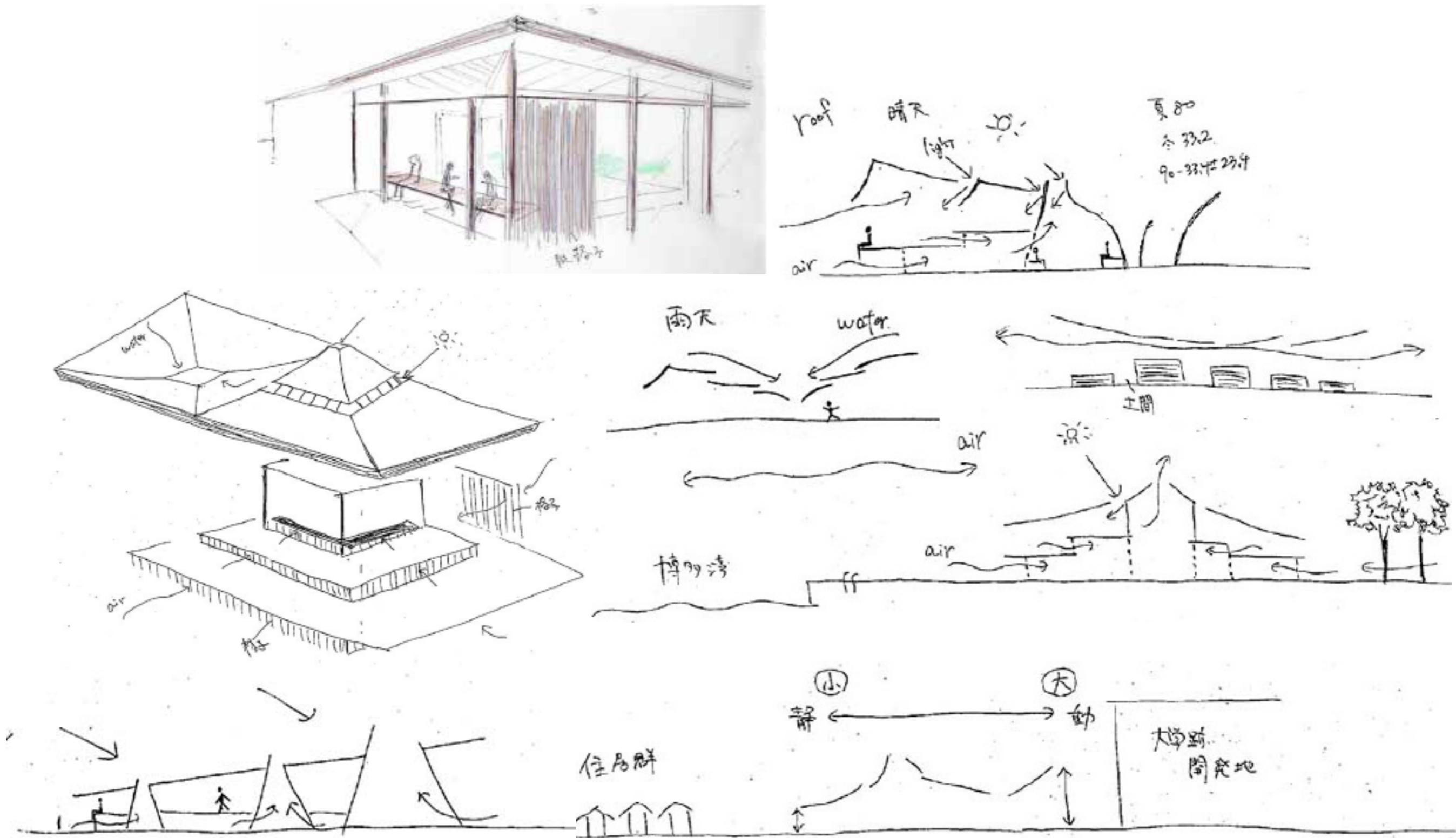
軒が長く低い、静かな空間。

# Study

切り取った断面のような形。  
土間空間を表に出し、談話空間を作る。  
屋根勾配により水を取り込み、足元にはグレーチング。



## Study



# Copper House



# Copper

圧延や押し出しなどの塑性加工がしやすく、展延性に優れる銅の素材感から、全体を銅の面材で構成した。  
博多湾からの海風の吹く敷地で、緑青を生じ、絶えず変化するCopper Houseは、時間の流れを感じさせると共に、  
徐々にこの土地に馴染んでいく。



福岡市東区

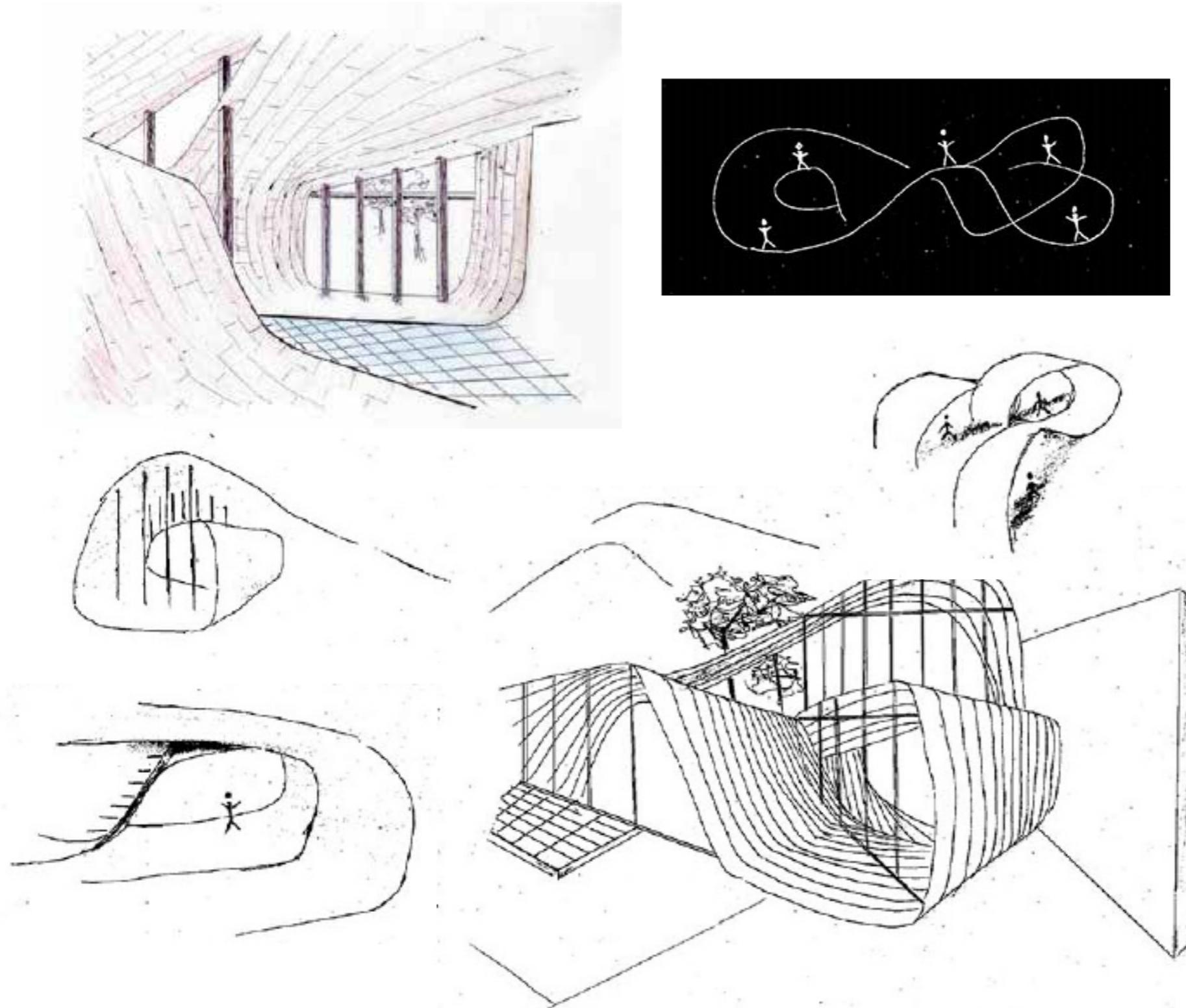
牧の鼻緑地、博多湾、住宅街に面する風光明媚な敷地に計画する。

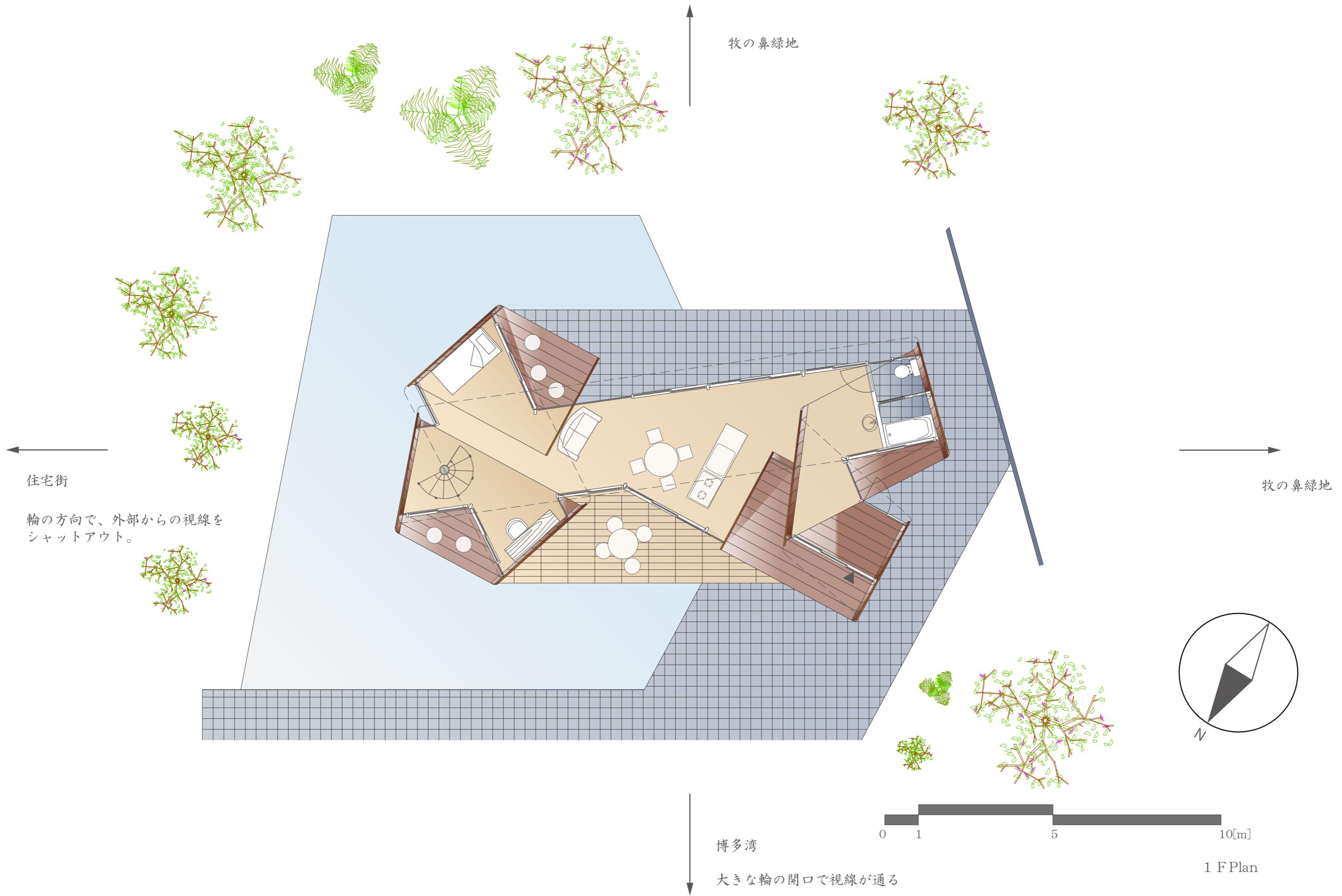


1枚の面材を基準とすることで、全体のシンプルさと、滑らかで複雑な内部空間を両立する。  
外側に捻じれることで、輪と輪の間に新たに空間が出来、外部空間と内部空間はシームレスに繋がる。

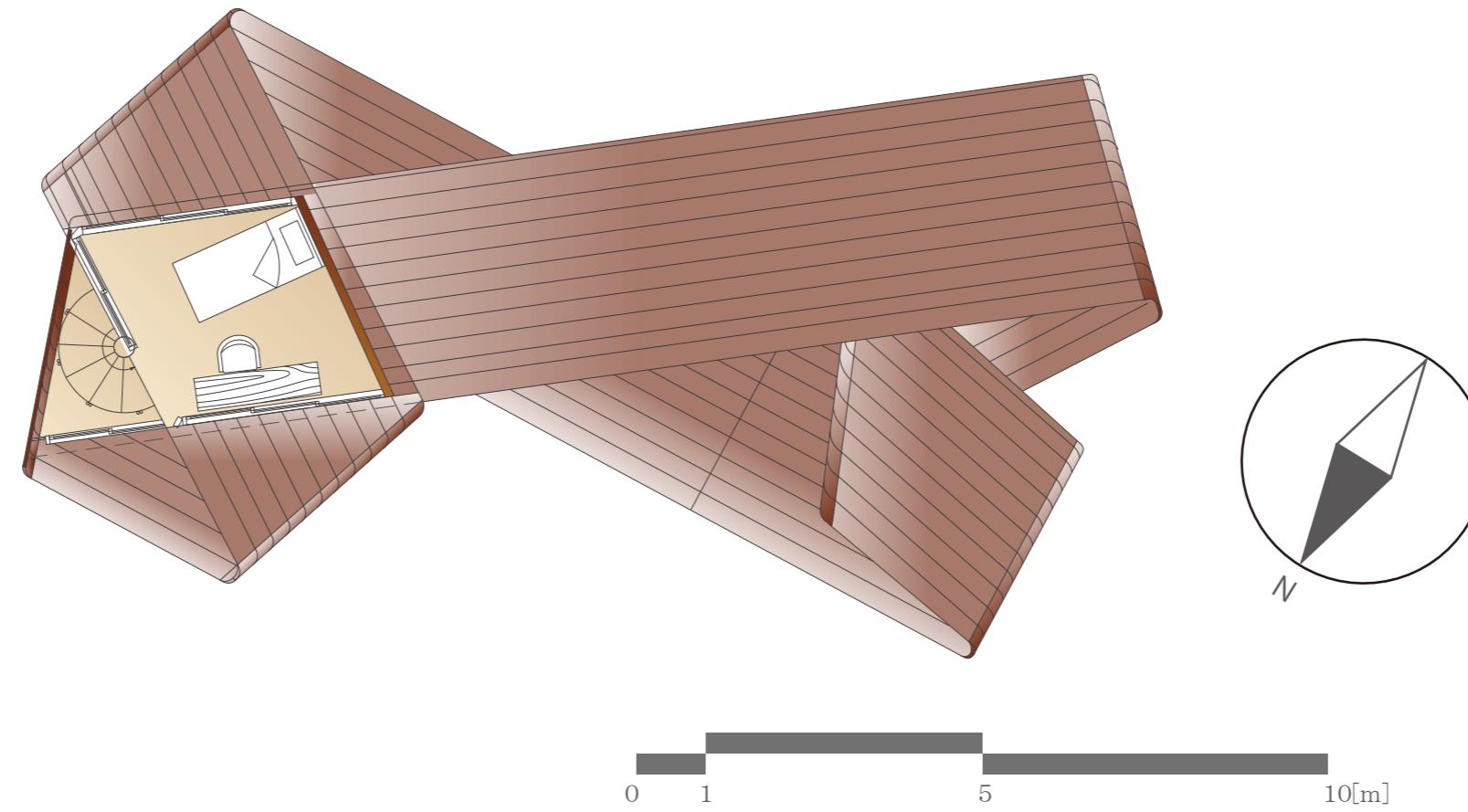


## Study





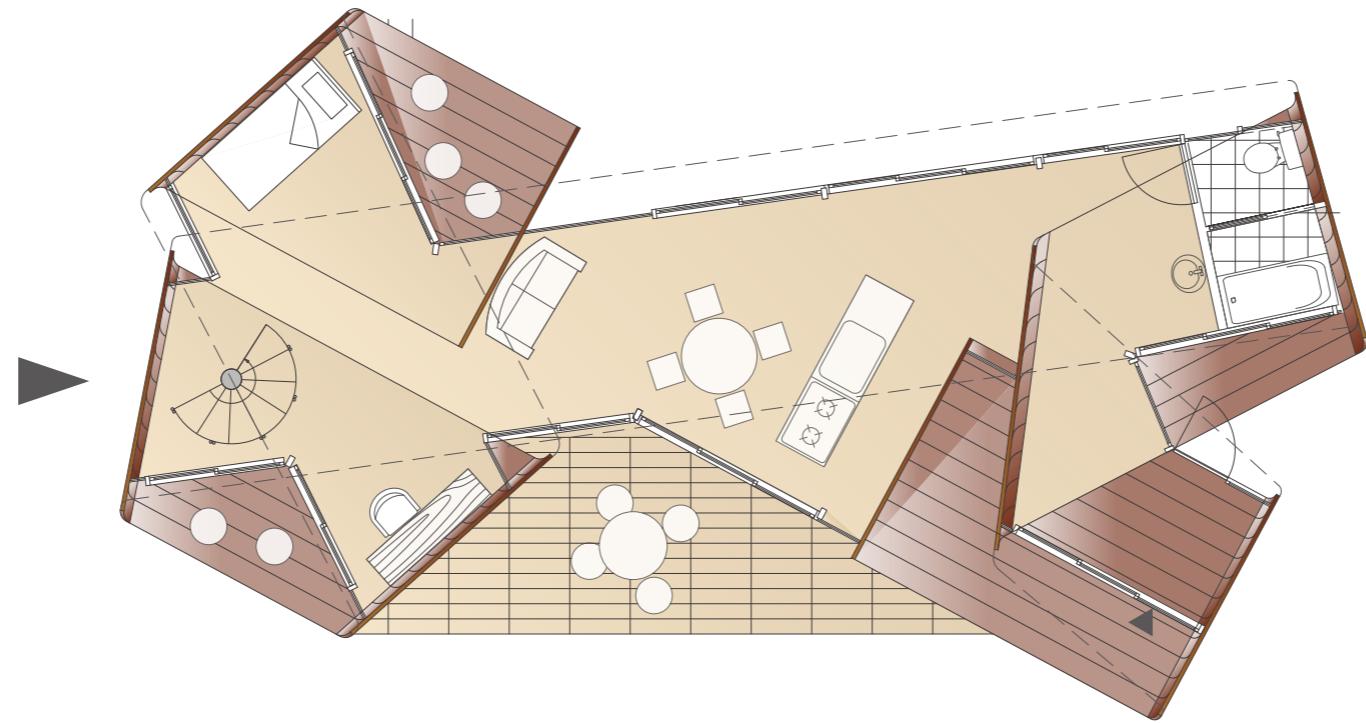
輪と輪は滑らかに繋がれ、個室同士の隔たりを緩和する。  
家族それぞれが、1つの輪の個室に居ながらもひと繋がりの大きな輪の中に住まい、家族が一体となれる住宅。

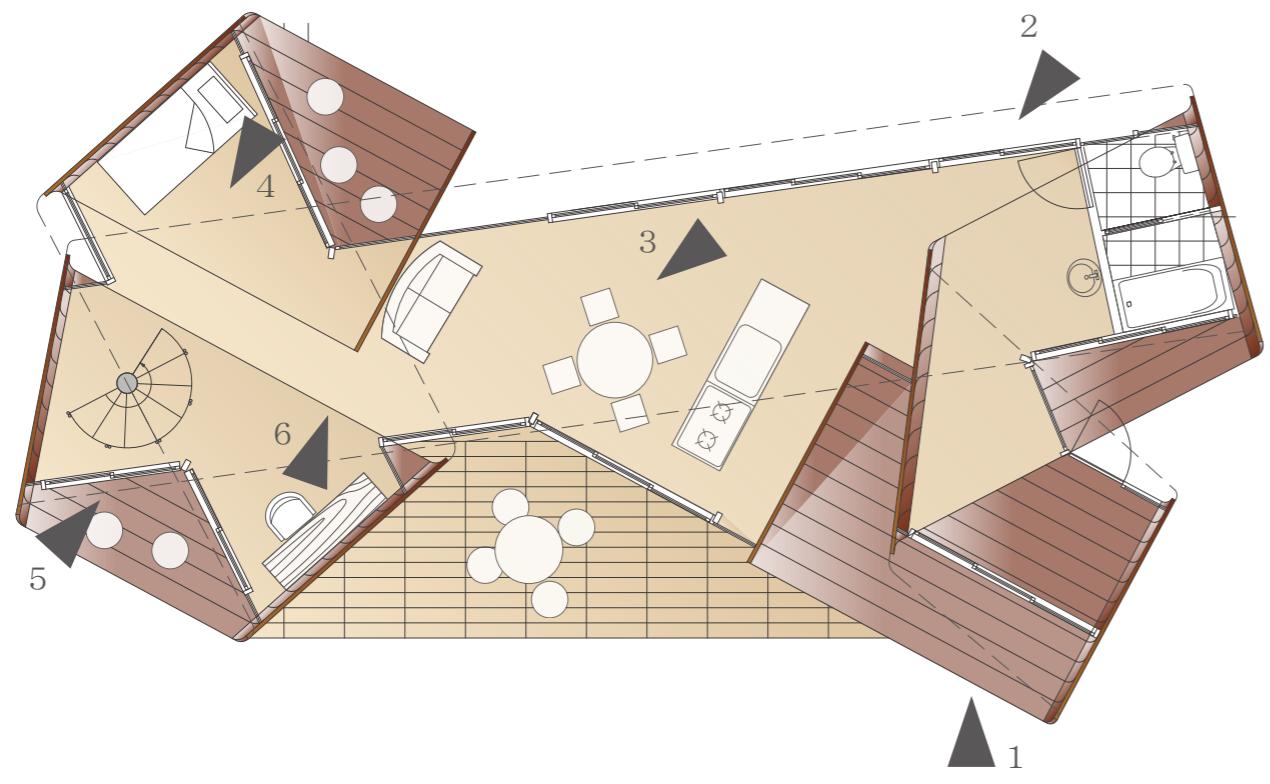


2 F Plan

## Scene

輪の方向により、緑地と海のある南北は視線が通り、  
住宅街のある東西は視線をシャットアウトする。  
床、壁、屋根とひと繋がりに続く自由な形状は風景を切り取る。





4

5

6

# Step House

---



## Composition

ボリュームをレベル差ができるように重ね、重なり部分を壁や空隙に、重ならない部分を水平窓にする。重なり部分は素材を変え、異なる素材に隣人の存在を感じる。通常、住戸の空間は間仕切りで分けられるが、レベル差で緩やかに空間を仕切る。



閉じた空間

重なりの多い閉じた空間は、寝室として。  
空間を囲う天井付近の窓からわずかな光が入る。



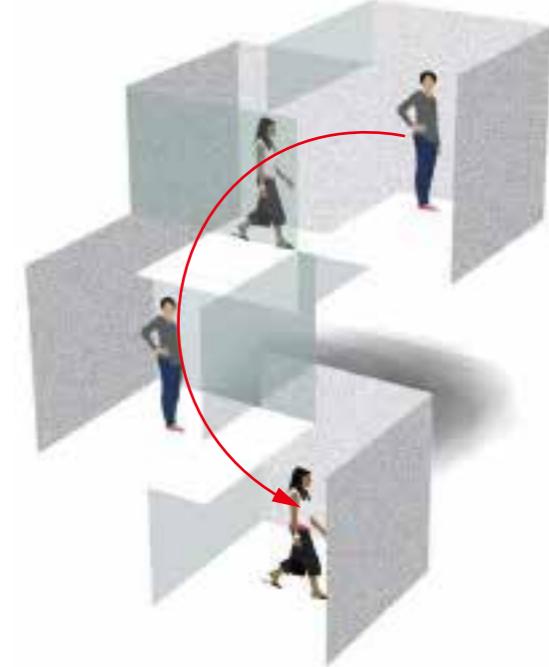
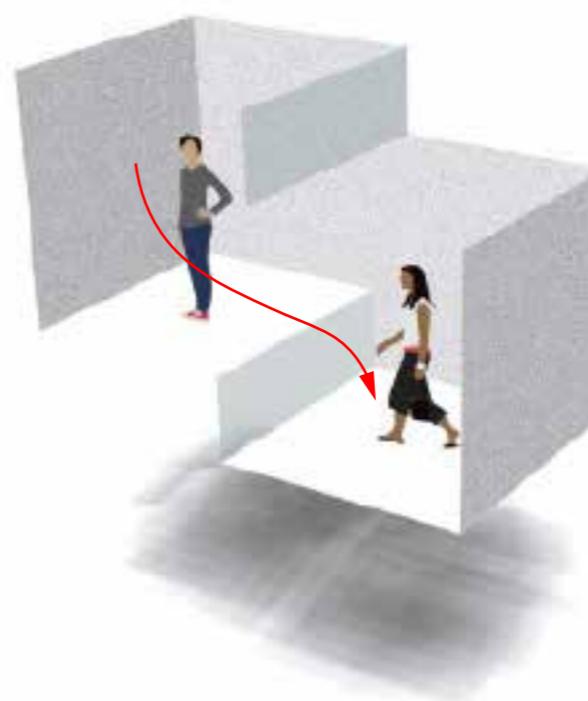
開けた空間

重なりの少ない開けた空間はいリビングとして。  
下階はやや閉じたりビングとして使用できる。

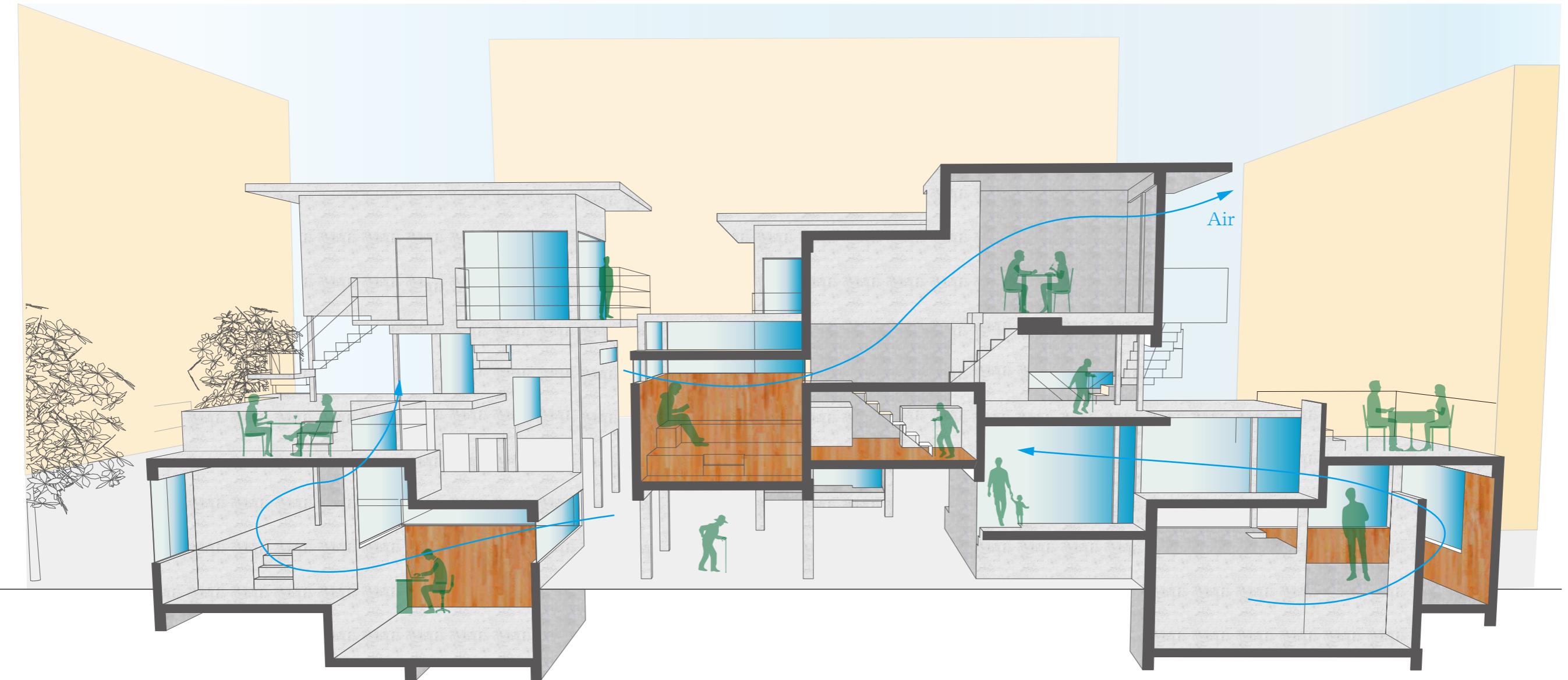
## Privacy



空間の用途はprivacy度合いにより決まる。  
都市の広場から街路、玄関、リビング、寝室への流れをプライバシーの度合い  
による一連の流れだと考え、「上下の移動」と「視覚における外へ開かれた程度」  
によって空間を構成する。



## Section



玄関から個室まで、Stepを降りていく構成。

上下の移動による身体的な運動は、実際よりも室内を広く感じさせる。

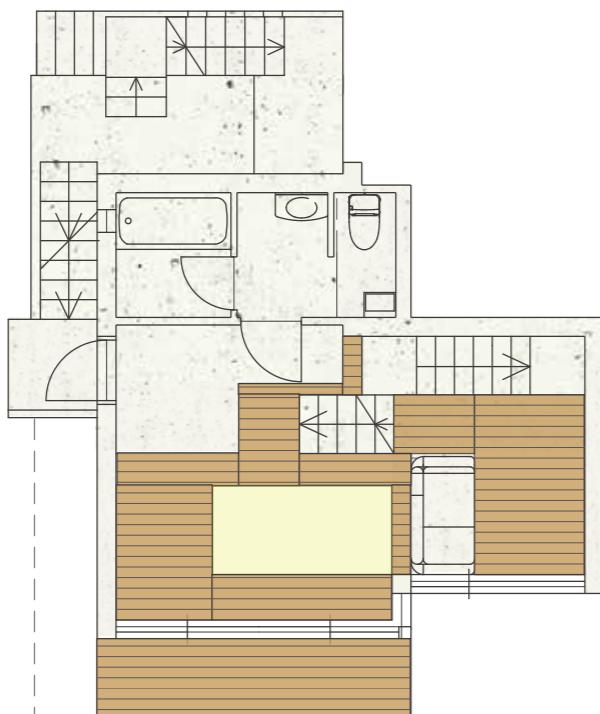
壁が低く大きい窓の空間から、壁が高く小さい窓の空間への縦の移動で、無意識に水平窓からの光を意識し、視覚的に空間を感じる。

また、上下の構成により窓を開ければ自然に風が抜け、料理などの匂いを運ぶ。

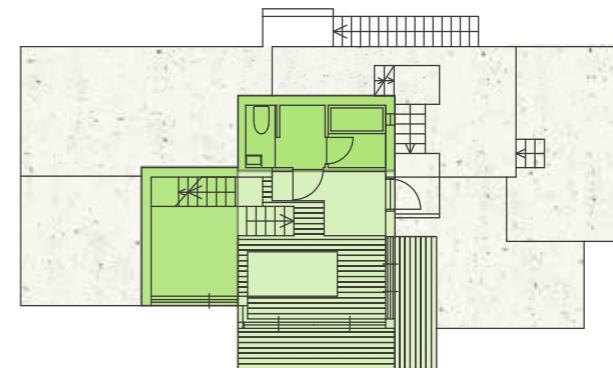
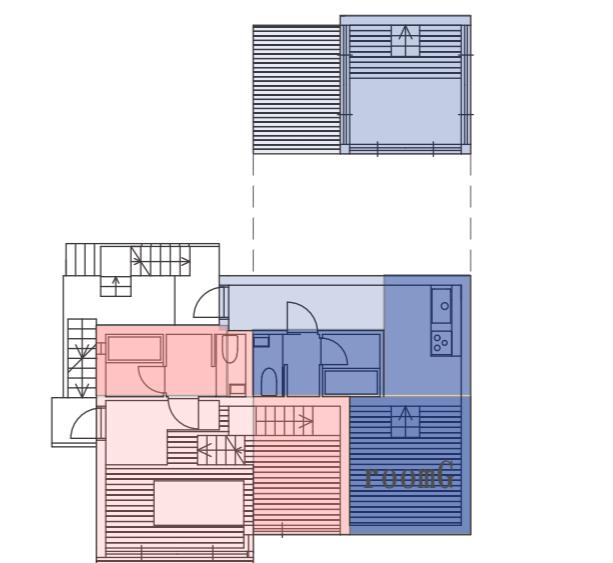
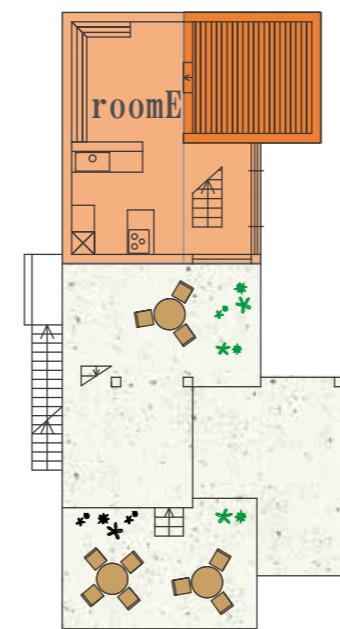
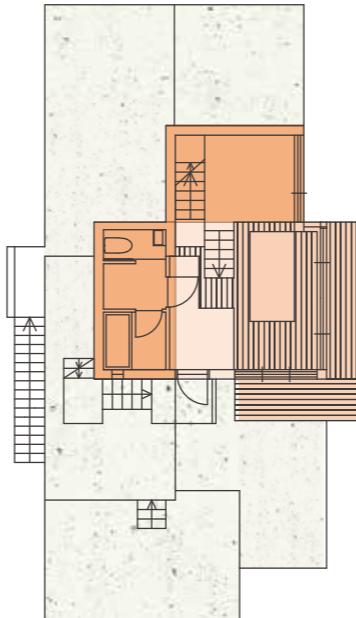


# Plan

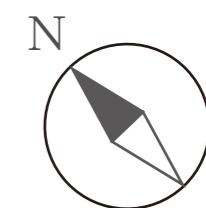
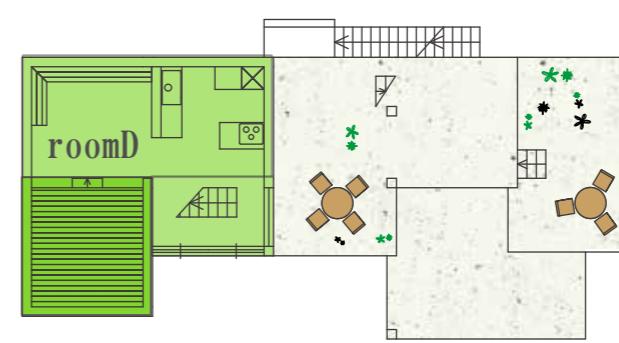
色の濃淡は、プライバシー度合いを表す。



roomF 1/100



3F revel 1/200



2F revel 1/200



都心部では、土地を無視して高層に建てられた住まいが多く、特に角地では高層な場合が多い。  
角地において、高層化せずに土地や隣人との距離感を感じながら住もう。

## 都市の谷



## Site • Concept

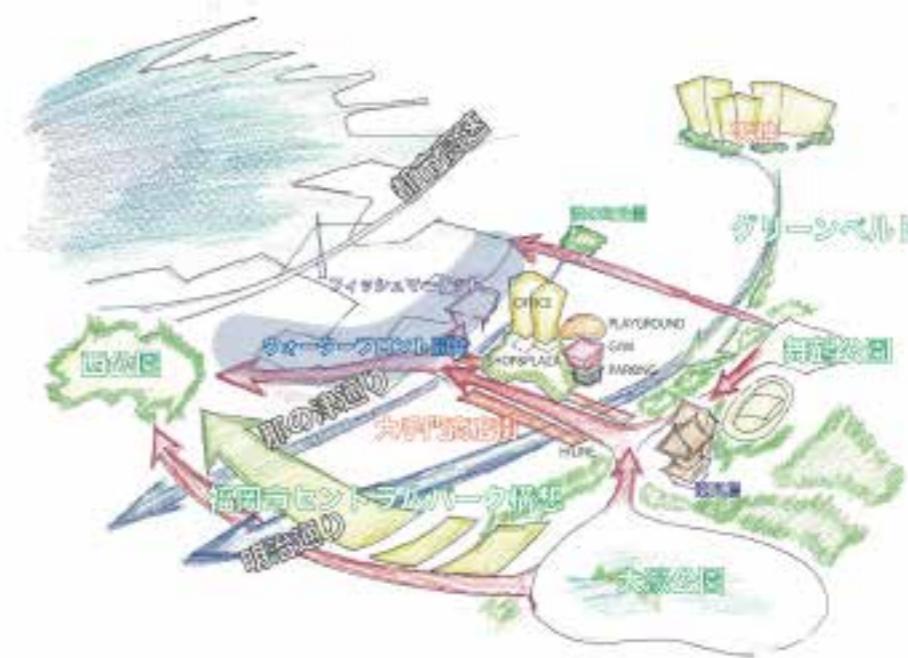
### 福岡市中央区大手門

南の福岡城、大濠公園、舞鶴公園、北の臨海地区に囲まれた自然、歴史に富んだポテンシャルの高い地域。  
臨海地区では西公園にわたって将来的にウォーターフロント開発がされる。  
敷地の大手門商店街への入り口は狭く、大濠公園からの道は、大通りで分断されており、アクセスしづらい。

大濠公園から臨海地区、西公園を結び回遊性を持たせる。公園でランニングを楽しむ人がそのままハイラインを伝って大手門商店街に訪れるような連続した歩行者空間を計画。

### 都市の谷

放物線状に建物の高さに規制をかけ、見通しを良くするとともに通り両側の活動を感じられるような都市の谷をつくる。  
これらの先駆けとして、複合施設を計画する。

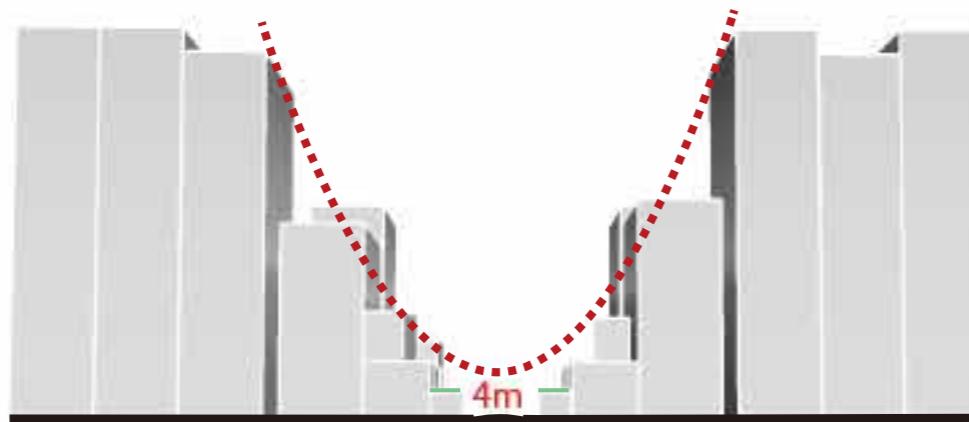


## High line

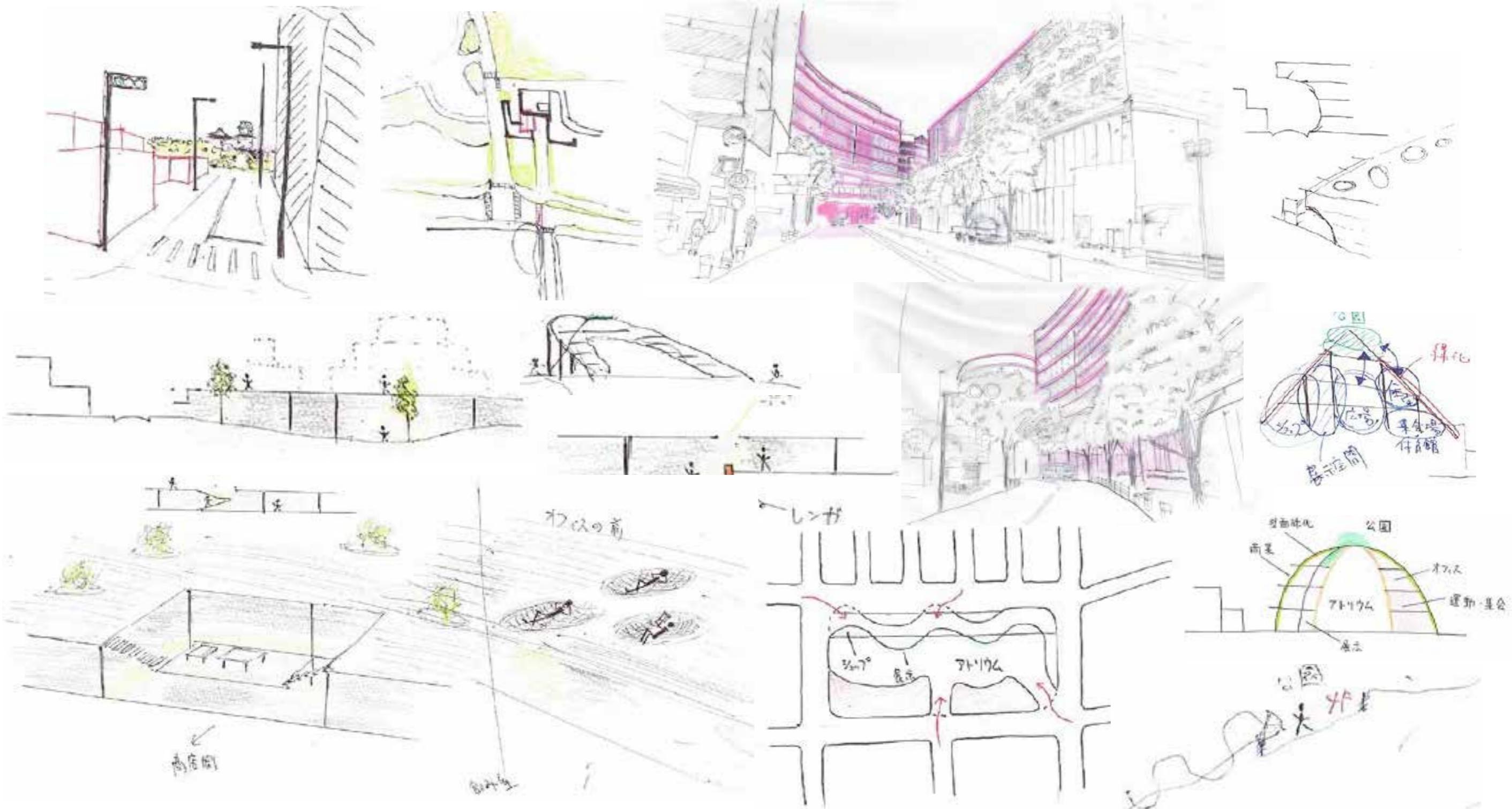
既存の建物に対しては前面に仮設のハイラインをたて、建て替えのタイミングに合わせて新たにハイラインを増設する。

また、大手門商店街の通りの道路の幅を縮め、グラウンドレベルでも歩行者空間を確保する。

GL+4m(大通り上は5m)。道路側には1m掘り下がったベンチ。  
ランニングする途中で疲れて少し休憩したい時や商店街で買った食べ物をちょっとつまんで一休みなどができる。



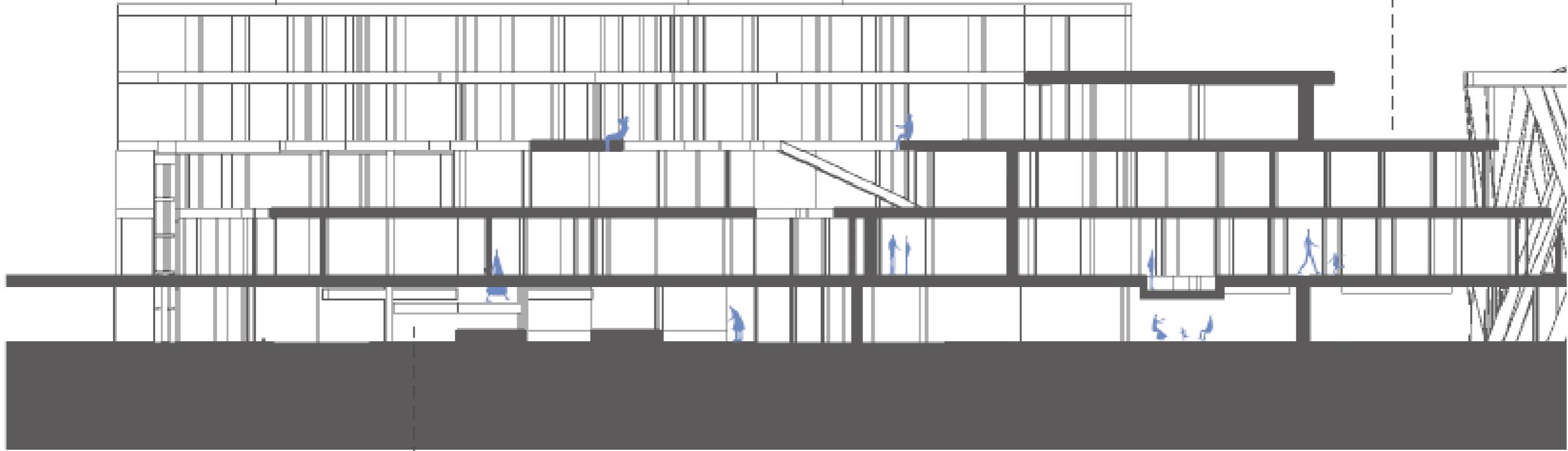
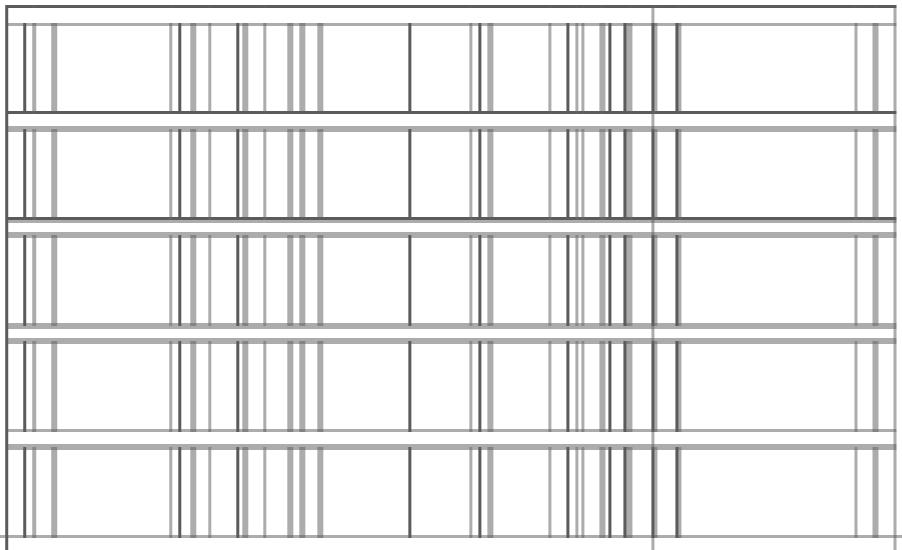
## Study



## Study



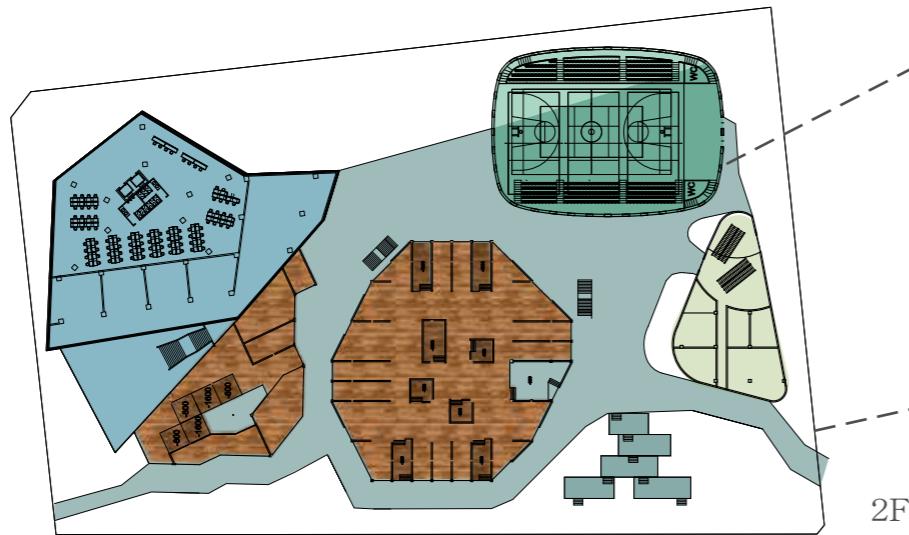
## Section



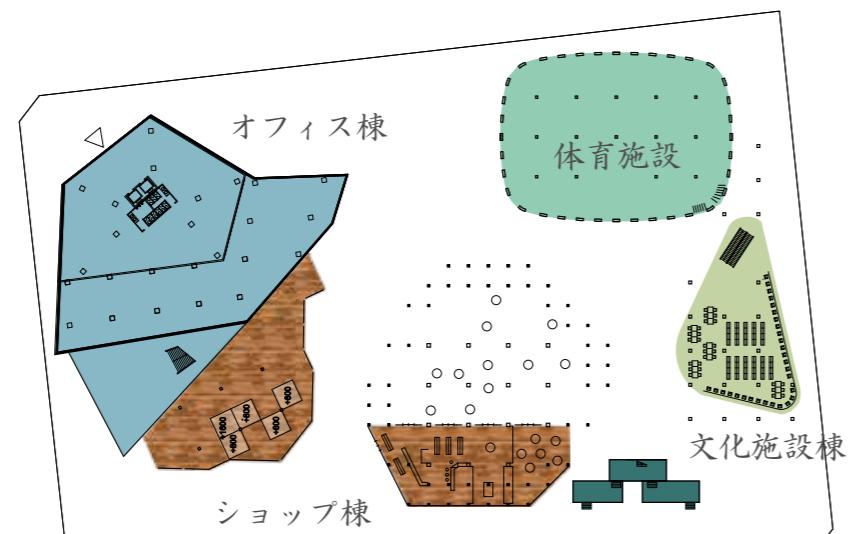
1階 2階部分では立体的に空間をつなぎ、商店街からの視線をつなぐ。  
商店街から1Fに入り店内を散策していると2Fレベルにいる、そんな体験ができる。

# Plan

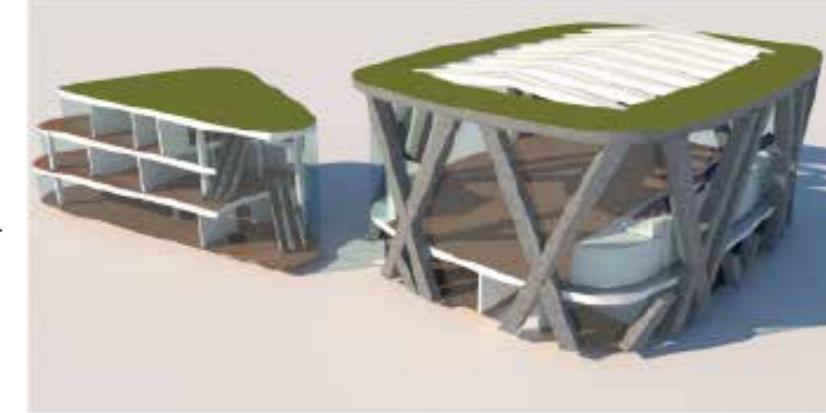
簃子小跡地に立てる複合施設は、文化施設棟、体育施設棟、オフィス棟と2つのショップ棟の5棟で構成。5棟はそれぞれ低層部分でつながっており、2階レベルでは High line とも接続している。尾根と谷の凹みは、通りから奥の活動を見せる。



2F



1F 1/1500



トラスとガラスの体育施設。

通りからは、トラスと活動が見える。



High line で繋がるショッピング棟と体育施設

